お話を聞いた人

佐賀県立名護屋城博物館
学芸員・松浦由佳さん

名護屋城と周辺の大名陣は、文禄・慶長の役に際して築城されているので、その当時の城や陣屋のことについて知ってもらいたいのはもちろんのことですが、戦いの後、破却され石垣のみとなった名護屋城跡や松林と化した陣跡を、のちの時代の人々がどのように現代まで受け継いできたのかも、合わせて感じて欲しいです。

発行／2021年3月　佐賀県文化・スポーツ交流局 文化課
佐賀市城内1丁目1番59号　☎0952-25-7236
「はじまりの名護屋城。」ウェブサイト https://hajimari-nagoya.jp/

第3陣「佐竹義宣陣跡
&島津義弘陣跡」

2021
№03

Zine@ Satake Yoshinobu
&Shimazu Yoshihiro

"Zine@" is a magazine that brings you to the Warring States Period.
Thinking of the Warlords and make your own Original Zine!

zine@ Satake Yoshinobu & Shimazu Yoshihiro

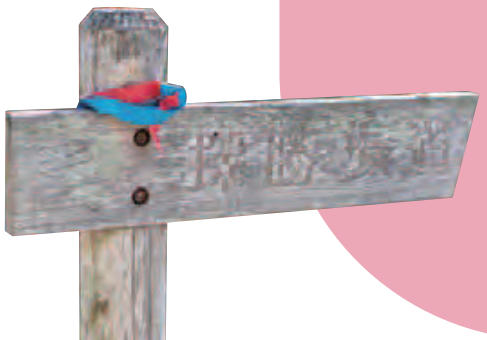
「はじまりの名護屋城」ミニ刊行物zine@（じんあっと）、第３号は学芸員の松浦さんに佐竹義宣陣跡と島津義弘陣跡を案内してもらいました。松浦さん、どうしてこの佐竹陣跡の紹介を？

この陣跡には一部櫓台（やぐらだい）の隅角（すみかど）と想定される石垣が遺っていて、岩盤に直に積まれた石垣を、下から仰ぎ見たときの迫力に圧倒されます。ここはまだ発掘調査を実施していない陣跡です。実際に目に見えるものは地表面に露出する石垣や土塁、堀などですが、佐竹の家臣で平塚滝俊という人が国許へ宛てた書状と、同じく家臣の大和田重清という人の日記には、名護屋の陣の様子や、城下町・港町の様子、陣での暮らしや街の中に唐船が到着している様子などが記されています。整備されている陣跡ももちろん当時の様子を想像しやすく見学できるためいいのですが、この佐竹陣跡のように整備されていないところは逆に、420 年前からそのままここにあるリアルな史跡のような気がして、できればいろんな人に見に来て欲しいなと思っています。夏場は草が茂り近づくのも厳しいかもしれないですし、来るまでにかなりの傾斜を登ります。石垣や土塁など見学しやすい時期は冬場。歩きやすい格好で散策下さい。

佐竹陣跡を案内してもらった後、波戸岬キャンプ場に隣接している島津義弘陣跡へ向かった。こちらは遊歩道も整備されており、散策しやすいですね。

こちらは島津義弘陣跡の周回がトレッキングのオルレコースにもなっているので、観光のお客様も多くいらっしゃいます。海沿いなのでとても気持ちの良い散策コースで、天気の良い日は壱岐や対馬が見えます。今日は対馬までは見えないですね。でも今日はちょうど発掘調査をやっているので、それを見にいきましょう。

遺構を傷つけないよう細心の注意を払って作業を行っています。ここでは、島津陣跡の曲輪（くるわ）がどのような構造だったのか確認するため、発掘調査を行っています。礎石や柱穴等が出てくると陣の中にどの様な建物があったのか少しずつ当時の様子が明らかになります。また、名護屋城や陣跡で確認されている建物遺構の周囲には、拳（こぶし）大から親指大の河原石が敷かれる特徴があります。文禄・慶長の役が終わりを迎え、陣が当初の目的で使用されなくなった後、城には番所が置かれ、陣跡は、松林になったり畑などに姿を変えてしまいます。しかし、江戸時代以降もその存在は地域伝承や「配陣図」の中で表現され、人々の記憶から消えることはありませんでした。その後、名護屋城跡と陣跡は大正 15 年に史蹟に、昭和 30 年には特別史跡に指定され、遺跡として現代の私たちに受け継がれています。島津義弘陣跡は一般の方もご覧いただけますが、柵を設けている所やシートを被せている所には、安全のため近づかないようお願いします。



当時の陣の様子をどうやって分析するんですか？

調査を実施する組織で検討をすることはもちろんですが、有識者の方に年に 1、2 度来訪していただいて、どんな遺構なのかを検討しています。島津義弘の息子忠恒（家久）さんがここで蹴鞠やお茶を楽しんだという記録が残っており、この島津陣跡にもお茶室の跡じゃないかと考えられる場所があるので、現在検討を重ね調査をしています。

島津義弘陣跡上空撮影

Luís Fróis
1532 - 1597

ちなみに、宣教師ルイス･フロイスの有名な“日本史”の中には、この名護屋城エリアのことも書かれていて、秀吉たちが拠点を構築する前の名護屋の様子について「僻地（へきち）」と表現されています。そこにわずか数年の間だけ 20 万人もの人が押し寄せてきた。島津義弘だけでも 1 万人の軍役が課せられており、物凄い光景だったんじゃないでしょうか。今でも海からの風で木が曲がるくらいの場所なので、住むだけでも大変だっただろうなと思います。

The Beginning of New Cultural Tourism from SAGA!

Zine@

"Zine@" is a magazine that brings you to the Warring States Period.
Thinking of the Warlords and make your own Original Zine!

名古屋陣之図（佐賀県立名護屋城博物館蔵）

はじまりの名護屋城。

The Beginning of New Cultural Tourism from SAGA!

戦国時代の〝はじまり〟を知る、
秀吉は、故郷・尾張の母より導く誘れたどの地に、
全国の最大名たちを集め、まちを築いた。
人口二十万を超える世界最大級の城郭を
誇り、七年間のみ存在した、幻の都市。
しかし、それは確かにこの地に実在し、
様々な人々が集まり、様々な交流が生まれ、
様々な〝はじまり〟が誕生した。
四百年以上もそこに眠る〝続き物〟となり、
新しい文化の発展しかり。
あなたがこの地で政事・陣跡に立ち、
先人たちの息づかいに思いを馳せるとき、
あなたの新たな学びや発見の旅を、
ここからはじまる。
〝はじまり〟の城下町、
名護屋城へ、ようこそ。